

[成果情報名] 諫早湾干拓地の加工業務用タマネギの目標収量を確保できる「もみじ3号」の定植期間

[要約] 諫早湾干拓地における加工業務用タマネギの目標収量を確保できる「もみじ3号」の定植期間は、11月下旬から1月下旬であるが、定植が遅くなると収穫が梅雨時期になる可能性がある。また、11月下旬に定植する場合は9月中旬播種、1月下旬定植する場合は10月中旬播種が望ましい。

[キーワード] 諫早湾干拓地、加工業務用タマネギ、もみじ3号、定植期間

[担当] 長崎県農林技術開発センター・干拓営農研究部門

[連絡先] 電話（直通）0957-35-1272

[区分] 総合・営農（干拓）・野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2015年度

---

### [背景・ねらい]

諫早湾干拓地ではタマネギの生産が盛んに取り組まれており、加工業務用（ソテー用）の多くは中生から晩生品種の「ターボ」や「もみじ3号」が主に栽培されている。「もみじ3号」の定植適期は12月上旬～中旬とされているが、諫早湾干拓地は大規模営農が主であり、全てを適期に定植することは困難である。

そこで、加工業務用タマネギの目標収量8t/10aを確保できる「もみじ3号」の定植期間を明らかにし、作付け計画に活用する。

### [成果の内容・特徴]

- 11月下旬定植の場合、播種時期に関わらず出荷収量で目標収量（8t/10a）を確保できる（図1、2）。しかし、10月中旬播種の場合育苗日数が短く、全重も小さく根鉢が巻いていないため機械定植には適さない（表1、写真1）。
- 適期の12月中旬定植の場合、9月中旬、9月下旬、10月中旬、いずれの播種時期であっても、出荷収量で目標収量（8t/10a）を確保できる（図1、2）。
- 1月下旬定植の場合、9月中旬・9月下旬播種の苗では、出荷収量で目標収量が確保できない場合がある。10月中旬播種の苗を定植すると出荷収量で目標収量を確保できるが、収穫時期がやや遅れるため、梅雨時期と重なる可能性がある（図1、2）。

### [成果の活用面・留意点]

- 倒伏から1週間後を目安に収穫した。ただし、2014年収穫分の12/16定植分は都合により、適期より約1週間早く収穫した。
- 9月中旬播種の苗を1月下旬に定植すると、抽苔する可能性があるので注意する。
- 本試験は6条植（条間15cm：株間10cm：栽植本数：40,000本/10a）での試験結果である。
- 本データは加工業務用野菜栽培マニュアルに活用する。

[具体的データ]

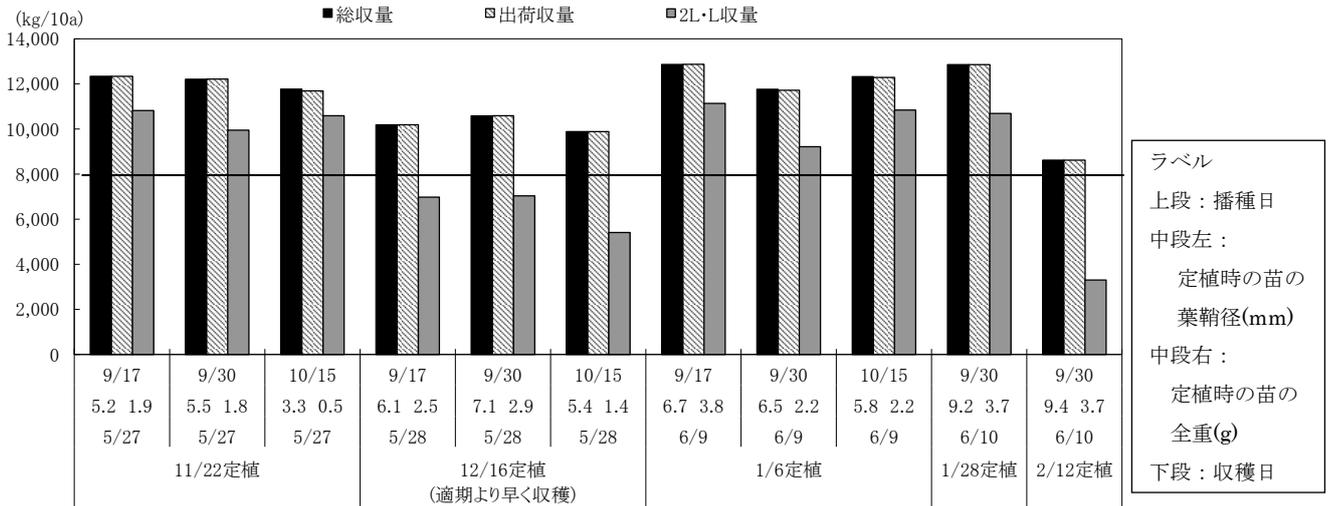


図1 定植時期別の収量 (2014年収穫)

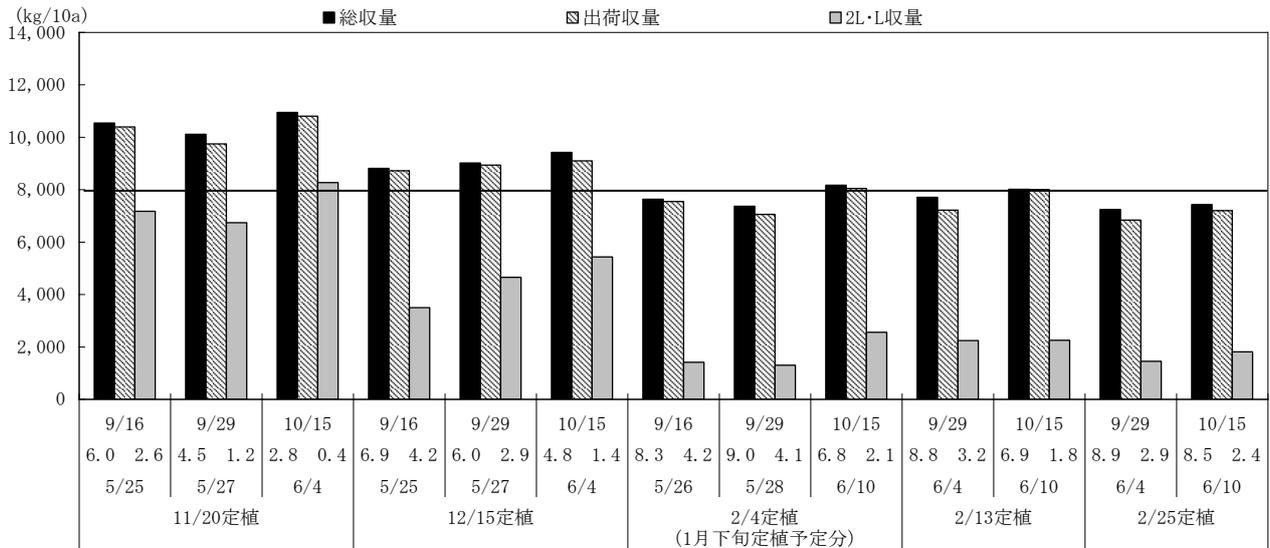


図2 定植時期別の収量 (2015年収穫)

表1 定植時の苗の大きさ (2014年収穫)

定植日	播種日	育苗日数	葉数(枚)	草丈(cm)	葉鞘径(mm)	全重(g)	備考
11/22	9/17	66	4.7	22.2	5.2	1.9	
	9/30	53	3.5	21.3	5.5	1.8	
	10/15	38	3.0	15.1	3.3	0.5	
12/16	9/17	90	2.9	26.9	6.1	2.5	標準的な作型
	9/30	77	3.3	28.0	7.1	2.9	
1/6	10/15	62	3.0	18.0	5.4	1.4	
	9/17	111	3.8	29.9	6.7	3.8	
	9/30	98	3.2	26.2	6.5	2.2	
	10/15	83	3.3	22.3	5.8	2.2	

耕種概要：黒マルチ栽培  
 栽培品種：「もみじ3号」  
 栽植本数：40,000本/10a  
 (6条植：条間15cm 株間10cm)  
 施肥量：N-27kg/10a  
 (1/2：硫安 1/2：ナタネ油かす)



写真1 定植時の根鉢の状況 (2014年収穫)

[その他]

研究課題名：ながさき加工・業務用野菜の生産技術確立及び特性解明、利活用法の開発

予算区分：県単

研究期間：2013-2015年度

研究担当者：平山裕介

既発表論文等：なし